

第5回

情報デザイン

講師

田邊 則彦

今回学ぶこと

今回は「パソコンで伝える」、「見やすさって何だろう」、「Web ページに学ぼう」の3つのポイントを通して、「情報デザイン」の基礎について学習します。

番組では「あまり見栄えが良くない」ポスターの問題点を修正していきながら、「見やすく」、「わかりやすく」、「インパクトのある」デザインとは何か、具体的に学んでいきます。

番組を見る前に知っておこう

明朝体とゴシック体、フォントの種類、  
フォントの大きさと字間・行間、色の三属性

情報をデザインする

ポスターやチラシ、Web ページといった媒体（メディア）を使って、伝えたい情報を的確に相手に伝える。それは、情報の送り手から情報の受け手に情報を渡すことに他なりません。その際、大きな助けになるのが視覚的なメディアです。よりわかりやすく、そして正確に情報を伝えるために、視覚的なメディアは欠かすことができません。情報の受け手が正確かつスムーズに理解できるように、「多くの情報を整理し」「きれいにまとめ」「見やすくする」情報デザインの基本を学んで、伝えたい情報・必要な情報を正確に効果的に受け手に届けてみましょう。視覚的な配慮に欠ける情報デザインは、読みづらく、見づらく、情報がうまく伝わらないなど、情報の受け手にストレスを与えてしまいます。これでは、メディアを介して情報の送り手と受け手のコミュニケーションの妨げとなってしまいます。

**■ 読みやすさとは**

文字や文章の「読みやすさ」には、可読性、視認性、判読性という3つの要素があります。

可読性：文章が読みやすいか

視認性：パッと見た瞬間の認識しやすさ

判読性：誤読がないか

フォント（文字の書体）の種類や文字のサイズを変えたり、行間や字間を調節することで、これらの要素を高めることができます。シンプルな書体で読みやすくするポスターやチラシの役割は、要点だけを端的に伝えるところにあります。したがって、「読む」というよりは「見る」という意味合いの強い情報の伝え方になります。

可読性（読みやすさ）よりも視認性（遠くからでもしっかりと字が認識できること）が求められます。

**■ 基本は「左揃え」**

センタリングは、行のスタート位置がバラバラになり、段落や文章を認識しづらくなります。基本の左揃えをお勧めします。

**■ 字間を調節して読みやすく**

文字同士が接してしまうほど近いと、読みにくくなります。逆に、字間を空けすぎても、読みにくくなります。字間がちょうどよくなるように調節しましょう。重要性に応じてコントラストをつける伝えたい情報を的確にとらえられるように、コントラストを付けてみよう。コントラストは、文字の「太さ」や「サイズ」、「色」を変えることにより付けることができます。「太字を使う」「色を変える」「サイズを変える」「書体を変える」「下線を付ける」「斜体を使う」といった方法は、文字を目立たせるために使われますが、装飾しすぎると全体のまとまりがなくなり読みにくくなってしまいます。

**■ 背景はできるだけシンプルに**

ポスターやチラシの文字の背景には、写真やイラストを入れない方が無難です。字の読みやすさ、写真やイラストの見やすさを最優先し、写真やイラストは、できるだけ文章のないところに配置しましょう。

**■ アイキャッチャーでさらに魅力的に！**

どんなポスターやチラシでも、内容を見てもらうためには、まず人の目を引くものでなくてはなりません。可読性を損なわずに、一瞬で人の目を捉えるための素材がアイキャッチャーです。タイトルを大きくしたり、ギザギザの円を使ったりして、情報の受け手をキャッチしましょう。

## Web ページはダイナミック

用紙サイズという物理的な制約を受けるポスターやチラシとは違い、Web ページには物理的な制約はありません。多くの場合、横幅は定められていますが、縦はスクロールによってどこまでも伸ばすことが可能です。ポスターやチラシは一目で全体像が見られるため、デザイン全体としてのレイアウトが重要となりますが、Web ページは全体としてのレイアウトよりも、最初に目にする（ファーストビューといいます）ページのレイアウトを重視するのが一般的です。最初に目に飛び込んできたデザインが、全体の評価を左右すると言っても過言ではありません。Web ページ上では、動画や音声も扱えますし、ハイパーリンクによるサイトの遷移も大きな魅力です。Web ページのデザインでは、さまざまな表現が可能です。動きのある表現を多用すると情報の受け手には視覚的ストレスにつながることも懸念されます。ポスターやチラシは、こうしたダイナミックな動きの表現はできませんから、一目で全体像を把握しやすいデザインが求められるのです。